

第 6 学年 1 組

1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」

ー 自己肯定感を高める取り組みを取り入れながら ー

2 育てたい力

◆表現力

○考えた事や自分の意図が分かるように，目的や場に応じて話す力

◆コミュニケーション力

○目的や意図に応じ，考えた事や伝えたい事などを的確に話す力や，相手の意図をつかみながら聞く力

○他人を傷つけず，かつ自分自身の考えや思いを曲げずに伝える力やそれを受容する姿勢

3 研究の視点と手だて

〔視点 1〕 国語の授業を中心とした日常生活での話し方・聞き方のスキルを実践することで「話す・聞く」能力を高める。

○内容や場に応じた声の大きさ，速さ，口の開け方を意識させる。

○発言しようという意欲を持たせる授業を目指して，似たような意見，違う意見，付け足したいことなど判断しながら自分の考えを意識させる。

○様々な音読の形態に慣れさせる。

○考えや思いを書いたり，友だちの意見をメモしたりすることで自分の考えや気持ちを明らかにさせる。

〔視点 2〕 考えや気持ちを伝えやすくする人間関係を育てる。

○ペアやグループでの学習を取り入れお互いにアドバイスしあったり励ましあったりさせる。

○他人を傷つけずに自分自身の考えや思いを曲げずに伝えるために，アサーショントレーニングを取り入れる。

第6学年1組 成果と課題

この1年間、卒業学年にとって必要なことは何かを常に考えてきた。そこで、どんな環境にあっても自分なりに考え立ち向かおうとする心を育てることが肝要であると日々取り組んできた。本研究では自己肯定感を高めることで、表現力・コミュニケーション能力を向上させることができると考え、取り組んできたことをまとめた。

〔視点1〕国語の授業を中心とした日常生活での話し方・聞き方のスキルを実践することで、「話す・聞く」能力を高める。

- ふだんの授業における学習の様子では、話し方のスキルを実践することでお互い話したり聞いたりする際みんなに聞こえる声ではっきりと意思を伝えられる児童が増えてきた。緘黙傾向の児童も自分なりの言葉を発することができるようになった。
- 自分の考えや思いを書くことや友だちの意見をメモすることで、先生や友だちの意見を聞く態度が良くなった。また、書いたことをもとに話すことで発言しやすくなったようだ。
- ▲自主的な発言をする児童は増えてきたが、自主的に意見を言いにくい児童については今後も目的や場に応じて話す力を身に付けさせていく必要がある。

〔視点2〕考えや気持ちを伝えやすくする人間関係を育てる。

- ペアやグループでの話し合い活動を国語だけでなく社会や学活、総合的な学習の時間などでも取り入れてきた。
 - ・話し合いをまとめたり、代表で発表したりするのも持ち回りにすることでこの活動に慣れ、クラス全般として発言が増え、場や目的に応じて話す力も徐々に増えてきた。
 - ・お互いの発言や活動、行動にアドバイスや励ます機会を求めることで発言しやすくなり、クラスの雰囲気も良くなってきた。特に緘黙傾向の児童が自分の考えを言えるようになったことが大きな成果と言える。
- 他人を傷つけることなく自分自身の考えや思いを曲げずに伝えるためのアサーショントレーニングは、総合的な学習の時間や道徳、学活、毎日の短学活の際に行ってきた。自分たちが学習や生活の中の様々な場面でのどのように考え、どのように表現するかをこのトレーニングを通して行ってきた。この取り組みは、クラス全員で一人ひとりの考えを受容しようと言う心がけを皆が持てるようにし、結果として事実を事実として発言し、自分の意見をしっかりと伝えようとする態度を育てることにつながった。
- ▲高学年として期待される深まりのある話し合いをするには、更に論理的な話し合い形態での練習や活動を進めていく必要がある。

まとめ

高学年としてコミュニケーション能力を育てるという時、発言しようとする意欲が低い場合、単なる話し方スキルだけではコミュニケーション能力の育成にはならないと考える。そこで本研究では視点1、2のような手だてを講じてきたわけだが、結果としてクラス全員の児童が発言しやすい雰囲気を生むことができた。このように、自分の考えを明らかにさせて書く活動やアサーショントレーニングなど、自己肯定感を高める手だてを取り入れることはコミュニケーション能力の向上の一助となるのではないだろうか。